

8月23日(水) 本年度第7回(通算 第2883回)
「クラブ創立記念アクト合同例会」夜間例会
担当/理事会・青少年委員会 18:30～釧路プリンスホテル

◆お客様と来訪ロータリアン

◆メーキャップ

7/22、23 (富良野 RAC) 川村 真一君

8/12 (野球教室) 森山 義文君、鈴木 圭介君、石井 東洋彦君、伊藤 尚嗣君、大友 淳君
川村 真一君、小山 義雄君、坂入 信行君、高橋 貢君、中島 仁実君
中嶋 嘉昭君、平井 昌弘君、本間 明美さん、宮下 洋介、山岸 弘典君

◆出席報告【会員総数 78 名 免除 6 名 出席計算に用いた会員数 78 名】

本日の出席率	出席者名 35 名	メーキャップ 18 名	出席率 67.9%
前々回の修正出席率	出席者名 50 名	メーキャップ 2 名	出席率 66.7%

◆ニコニコ献金

- ・創立記念よろしくお願ひします。 ～森山 義文君
- ・松原パスト会長よろしくお願ひします。 ～鈴木 圭介君
- ・本日も皆様よろしくお願ひします。 ～伊藤 尚嗣君
- ・松原先輩、本日はよろしくお願ひします。 ～長内 信辰君
- ・本日担当例会よろしくお願ひします。 ～中島 仁実君
- ・入会記念日欠席しました。すみません。 ～萩原 昭博君

◆会長挨拶



会長挨拶をいたします。昨日当クラブの名誉会員であります、阿部昌雄様のご逝去なされました。改めまして阿部昌雄名誉会員は、昭和35年11月15日に入会いたしまして、1981年から82年にクラブ会長を務めており、1992年から93年は分区代理、1996年から97年の坂本ガバナー年度では地区幹事を担当しておられました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

先週はお盆休みということで休会でしたので、2週間ぶりの例会になりますけれども、先ほど本間明美会員からお話がありましたが、12日に地区資金を利用した亜細亜大学野球部と JR 東日本の野球部の皆様方のご協力による小学生を対象にした野球教室が開催されました。170名ほどの大勢の小学生が集まり盛大に開催されました、お手伝いいただいた会員の皆様方は大変ご苦労様でした。

さらに1週間後の19日は分区の主催で全道の中学校硬式野球部の野球大会が開催されました。硬式野球ですから釧路には1チームしか無いそうで、札幌から2チームが加わり全道で10チームが参加し、トーナメント形式で試合をして、予選は公立大学野球場で行い準決勝と決勝は市民球場で行われました。7分区のRC主催となっていますが、資金的なことは釧路RCが全て行っています。

さて、本日はクラブ創立記念アクト合同例会という事になっておりまして、1958年の8月18日がR Iの承認を受けた日となりますので、来年の8月第二例会か第三例会あたりが、ちょうど60周年記念の例会ということになります。今日は59回目のクラブの誕生日の例会ということになりますけれども、いよいよ来年が節目の60回ということになりますので、クラブ会員全員の力を結集して60周年の記念式典を盛大に開催できることを心から願っております。今日は2002年から2003年度に分区代理（現在のアシスタントガバナー）を担当していただきました、松原 パスト会長にロータリーの歴史をお話しして頂きますけれども、この北クラブではアシスタントガバナーを経験されて、現在在席しておられる方は「北川パスト会長」、「松原パスト会長」のお二人だけになってしまいました。北ロータリークラブの歴史と伝統を学ぶ大変貴重な時間になると思いますので松原パスト会長どうぞ宜しくお願い致します。以上、会長挨拶を終わります。ありがとうございました。

◆幹事報告



それでは8月第3例会の幹事報告をさせていただきます。

1. 地区大会登録が完了しております。今年は27名の登録を頂きました。
 2. 8月15日釧路市栄町平和公園にて行われた釧路市戦没死没者慰霊式へ幹事が参加してまいりました。
 3. 8月18日・19日に行われました地区事業である中学硬式野球大会の開会式並びに閉会式に会長・幹事で出席してまいりました。次第を回覧しております。
 4. 8月21日に逝去された名誉会員であります阿部昌雄様の葬儀につきましては本日ファックスでご案内いたしました通り、ご遺族様よりお手伝いにつきましては社葬で執り行いますので、大変恐縮ではございますがご辞退いたします、という意向を頂いております。
 5. 記念日プレゼントと例会出席予定表を回覧させていただいております。
 6. 釧路ローターアクトクラブ様より9月の2回分の例会と24時間チャリティー活動の案内がきております。こちらの方も回覧させていただいております。
 7. 国際ソロプチミスト釧路の認証40周年記念誌が届いております。こちらも回覧させていただいております。
 8. 米山梅吉記念館より館報その他ご案内が届いておりますので、こちらも回覧させていただいております。
- 以上でございます。

◆青少年委員会 中島仁美委員長



皆さんこんばんは、青少年委員会の中島です。本日はクラブ創立記念アクト合同例会という事で、理事会と青少年委員会で担当させていただいております。本日はパスト会長そしてガバナー補佐をお務めになられた松原様にご講演をお願いしております。ここ数年、私も含めまして若手会員が増えまして、私もそうですが、やはりロータリーというものについてもっともっと知りたいという事と、ロータリークラブの歴史について、いろんな先輩たちから様々なお話を聞きたいなと思いますし、家庭集会ではリラックスした感じでそのような話をさせていただき、若手会員についてはとても有意義な時間を過ごさせて頂いております。本日、ローターアクトのメンバーも来ておりまして、将来有望なロータリアンになるであろう、この私たちよりもさらに若い世代がロータリークラブの話を吸収して、将来素晴らしいロータリアンになるためのきっかけになるのではないかと、松原様にお願いを致しております。松原様からは30分で足りるのかと、ありがたいお言葉も頂いておりますので、前置きはこの辺にいたしまして、本日のプログラムに移らせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

◆松原パスト会長



皆さんこんばんは。 久しぶりにこの場所に立つと、ちょっとあがり気味でどんな話になるか不安ですけども、創立記念という事でロータリーの話の少ししてみようと思いますが、話すといっても沢山あり過ぎてどこから手を付けていいかわからないのが実情で御座いまして、ロータリーが非常に苦勞して今日に至ったという経過を、少し話してみたいと思います。 先ほど鈴木幹事そして森山会長から名誉会員の阿部さんが亡くなったという話をされました。 実は湖陵高校で私の2年先輩です。 それで私がロータリーに入会して最初のクラブ協議会に、私とお亡くなり

になった足立産婦人科の足立君と二人、新入会員という事で出席をさせていただいた時に、阿部さんがいらっやって、「なんか話をしろ」と言われました。 入ったばかりで何もわからないから先輩の皆さんに「手本を示していただきたい、その手本を見て勉強させていただきます」と言いましたら、阿部さんがすぐ立ち上がって「これは大変な事になった、私も一生懸命努力するから松原君もしっかりやってくれ」と、そういう激励のお言葉を頂きました。 かなり古い話ではありますが懐かしく思い出されております。

今、ロータリーは非常に苦勞して今日に至っていると話しました。 1905年2月23日にシカゴでポール・ハリスを始め3人の仲間と、初めてのロータリーを作ろうではないかという話になりました。 これがロータリーの創立という事になりますけれども、本来であれば今のように会長があり、幹事があり、そしていろんな役職がついて、初めて例会をもってそれが最初の設立総会という事になるんですけども、シカゴクラブはもう何しろ初めてのロータリークラブですから何にも無い訳です。 規約も無ければ、いろんな決まりというものがあります。 そこからスタートした訳です。 しかしロータリークラブを作ろうという事で集まった会でありました。 本当は3月23日に第3回目の会合をもったときに初めて会長が決まりました。 シルベスター・シールが初代会長で、ハイラム・ショーレーが幹事（記録係）であります。 ウィリアム・ジェンセンという人が同じく幹事で通信係（連絡係）です。 そして会計がハリー・ラグルスであり、こういう形で第1回の例会をもちました。 本来であればこれを最初のロータリーの創立の日だというふうに言う人もいるんですけども、やはり私は最初であるのは皆でロータリーを作ろうと集まった最初の会合が創立記念日だろうと思っております。

最初は4名でスタートしたんですけども、その後ハリー・ラグルスとウィリアム・ジェンセンが入りました。 それから俺も入りたいという人がどんどん出てきて、かなり的人数に膨らんでいくわけです。 最初のロータリークラブというのは、日本のように都会型のロータリークラブ、これはもう大企業の社長や専務が作ったクラブで、アメリカの場合は庶民の集まりで作られたクラブだったんですね。 場所もシカゴで大都会ですけども、工業地帯であって日本で言えば川崎とか横浜とかいろんな工場が沢山あって働く人がいっぱいいる。 そういう中で出来たクラブです。 したがって最初の会員の中で大学ではポール・ハリスとハリー・ラグルスだけです。 あとはみんな農村から出てきた都会で商売を始めた人、いわゆる中小零細企業の社長さんであります。

1908年に2人の会員がシカゴクラブに入ってきます。 1人はチェスリー・ペリーという人で、この人は後に出てきます全米ロータリークラブ連合会、それから国際ロータリー連合会の事務総長を33年間務めたという組織の大ベテランであります。 もう1人はアーサー・フレデリック・シェルドンで、この人は経営学の非常に優れた学者であります。 この人がロータリーの奉仕哲学を導入しました。 今日ロータリーが発展しているいろんな奉仕活動の源を作った人です。 しかしこの人は奉仕一本やりで親睦という事にあまり関心を持たなかったんです。 それで功績ある仕事はしたんですけども、シカゴクラブや国際ロータリークラブの会長にも理事にも役員にもなっておりません。 それでも彼の残したロータリーの業績は素晴らしいものがあります。

この2人が入ってきてロータリークラブの中に奉仕という概念が入ってきたんですね。 最初は親睦を主体にしていたんですけども、シカゴロータリークラブが発展して会員数が増えて300人近くに膨れ上がります。

初代会長がシルベスター・シール、2代目会長がアルバート・ホワイト、3代目会長がポール・ハリスであります。ポール・ハリスはその時に自分から手を上げて会長に立候補するんですね。そして我々は世のため人のためにロータリークラブの活動をしようではないかと呼びかけをするんです。しかしこれが意外とシカゴクラブの会員に不興を買うんですね。ポール・ハリスは4代目会長もするんですが、4代目会長の途中で彼は体調不良を訴えて退任をいたします。体調不良というよりは親睦か奉仕か激突の中で揉めて辞めたという事が実情みたいですね。その当時、私は居ませんからわかりませんが、そういう書き方をしている本もあります。そのようにしてハリー・ラグルスがポール・ハリスの後を引き継いで会長になります。そして5代目会長もハリー・ラグルスが務めて、シカゴロータリークラブの一番長い会長経験者という事になっております。

6代目の会長を選ぶときに非常にシカゴクラブが揉めるんですね。親睦派、奉仕派、それから中間派というものがあるわけです。この間で本当はチェスリー・ペリーを指名すると決まっていたんですけども、それに異議を申し立てる会員が増えて、結局決まらないので選挙をやろうという事になります。それで選挙をやった僅差で対抗馬のラムジーが勝ちます。このラムジーという人は皆を押し付ける力があり、中間派のリーダーであった事もあり投票の結果はラムジーの勝ちという事になるわけです。しかしこれが国際ロータリーにとっては非常にいい選挙結果という事になります。チェスリー・ペリーという人は組織を作るには非常に卓越した才能を持っておりました。

そしてロータリークラブ会員が奉仕活動の団体として、凄いい勢いで増えていきます。最初はシカゴですが、その次にサンフランシスコに世界で2番目のロータリークラブが誕生します。そこにホーマ・ウッドという人がいて、付近のロサンゼルスやシアトル等にロータリークラブをつくるわけです。このようにロータリー活動を普及させるために力を尽くした人はロータリーには沢山いるわけですね。

アメリカだけでもかなりのロータリークラブが出来たものですから、どうしても一つにまとめて全米のロータリークラブ連合会というものを作ろうという事になります。その組織作りをやったのがチェスリー・ペリーであります。

日本のロータリークラブの最初の会員は福島喜三次という人で、三井銀行のアメリカはダラス支店の支店長だったわけです。日本から経済視察団がアメリカに渡った時に、三井銀行の役員として居たのが米山梅吉であります。米山梅吉が福島喜三次のところに行ったときにチェスリー・ペリーが来て、日本にもロータリークラブを作ってくれという話をするわけです。いろいろとロータリーの話をして是非これを普及して奉仕活動をしたんだという話を話をするわけですね。それで後にこれが東京クラブに発展していくわけですけど、結局チェスリー・ペリーは全米ロータリークラブ連合会というものを組織し、初代会長にポール・ハリスを推薦するんですけども、シカゴクラブでチェスリー・ペリーが落ちたこともあり、全米ロータリークラブ連合会を作るときの会長にポール・ハリスがなることに異議を唱える人間が出てきました。その調整役を行ってポール・ハリスを会長にしたのが6代目会長のラムジーであります。ロータリーというものは、いろんな意見を出す人がいて簡単にはいかないんですね。それでいてこれだけ多くのロータリークラブができて、最初4人で始まったメンバーが現在では32,760クラブで122万人いるわけです。ロータリークラブができてから現在で112年になりますけれどもそれだけ増えてきたわけです。

なぜこんなにロータリークラブが普及するのかと考えると、確かに奉仕という事に対しては、やはり良いことをしているという感覚を皆が持っているんですね。それがやはり普及につながっていると思います。全米ロータリークラブ連合会ができて会合を開いたときに、クラブ数が16ロータリークラブあり会員が1,500人でした。それが2年後の国際ロータリー連合会いわゆるRIが出来たころにはクラブ数が56ロータリークラブ6,000人と2年間で4,500人も増えるわけです。このような組織は世界を探してもそんなに無いのではないかと、それはロータリーが持っている理念、親睦を通して奉仕をする、これがうけるわけです。そこまで行くのにはいろんな事件がありました。シカゴクラブでも1業1会員制をひいて会員になった人たちが皆で手を取り合って、商売にお

ける経営相談から取引等いろいろと便宜を図って、それぞれの企業が成長していくわけです。ところがドナルドカーターが、ロータリークラブというのは、会員だけに奉仕して一般の社会に奉仕はないのかと問題を出します。それを聞いてポール・ハリスはこれではいけないという事で、もう少し奉仕活動を徹底してきちんとやろうと考えます。それが大きな力になってロータリクラブがどんどん増えていきます。これは素晴らしいことだと思います。うちのクラブも今若い人たちが活躍しております。2500 地区でもそうそうないと思いますし素晴らしいことだと思います。

今回の話からはちょっと離れるんですが、いま日本の若い人たちが非常に悩んでいるという話を今日アクトの皆さんも来ておりますので少ししておきたいと思います。

日本青少年研究所というところで、いろいろとアンケート調査をしております。その時に若い人たちの意識調査を行っております。今の中学生・高校生を含めて自分の行動に自信を持ってない人が非常に多いんですね。外国と比較しても物凄く差があるんです。自分のことを駄目だと思っている高校生の統計が 65.8%もいるんです。これは大変なことですよ。100 人中約 66 人が駄目だと言っているんですから。それを比較して中国は 12%です。アメリカでは 22%。韓国は意外と多く日本と同じくらいです。そういう状況が現在あります。日本では逆にしっかりやれるという人たちが 34.2%しかいないという事です。これを皆さん考えていただきたいのですが、釧路市長選挙の投票率は何パーセントでしょうか。37%くらいです。この数値とほぼ合ってしまいます。なのでこれは若い人たちの問題だけではないという事です。大人にもそういう不安を抱える、自主的に行動できない人たちがこれだけ居るといふ事の証でもあるわけです。これは世にとって存亡の危機だと私は思います。私はいつもロータリーは人作りだと、奉仕をすることは目的けれども、奉仕をする人を育てる、これがロータリーの使命だといふ事を私は言っております。したがってこういう今の世相を考えるとロータリーのもつ役割というものが非常に大きいと言わざるを得ません。是非これを若い人たちに頑張ってもらって、普及して世の中の安定を考えていただきたい、こんな風に思います。今現状はこんなことになっているんだという事を認識していただきたい。是非皆で頑張って日本のために努力をしていただきたいと思います。特にアクトの皆さん頑張って下さい。ご清聴感謝しております。ありがとうございました。

